

シリーズ5 人間とその進化の隣人たち

「人間とは何か」、それが霊長類学の掲げる問いです。人間の本性とは何か。

人間の体が進化の産物であるのと同様に、その心も親子関係も社会も文化も進化の産物です。

しかし骨や歯として化石に残ったものから、体の進化はわかっても、人間の本性の進化をたどることはできません。

そこで、つい最近まで同じ祖先をもつ進化的に近いなかまと比較する研究がだいじです。

現在の動物分類学上、ヒト科は4属です。ヒト科ヒト属、ヒト科チンパンジー属、ヒト科ゴリラ属、ヒト科オランウータン属です。

人間を、チンパンジーやゴリラやオランウータンと比較することから見てきた「人間とは何か」についてお話ししたいと思います。

第1回

10/1(土) 16:00 ~ 17:30

『人間とは何か、
想像するちから』



人間のごくあたりまえの姿のなかに、その本性が見えてきました。人間の進化の鍵は、直立二足歩行ではなくて、あおむけの姿勢です。生まれてすぐ母親と離れてあおむけで安定しているのは人間だけです。人間特有の親子関係、教育、言語、そして想像するちからについてお話します。

松沢 哲郎

霊長類研究所長・教授

第2回

10/8(土) 16:00 ~ 17:30

『ゴリラの社会に探る
人間家族の起源』



ゴリラはその巨体と勇壮なドラミングから、キングコングのモデルにされるほど凶暴な隣人という誤解を受けてきた。その誤りを正し、ゴリラの野生生活から、謎に包まれた人間家族の起源とその行方について考えてみたい。

山極 壽一

理学研究科長・教授

第3回

10/15(土) 16:00 ~ 17:30

『オランウータンとヒト、
形態から考える』



東南アジアに生息するオランウータンは、進化的には人間と最も縁遠い大型類人猿ですが、その目や顔の形態には、人間と多くの共通点があります。なぜでしょうか？オランウータンの研究から見えてきた「人間とは何か」についてお話します。

幸島 司郎

野生動物研究センター・教授

第4回

10/22(土) 16:00 ~ 17:30

『チンパンジーとボノボから探る
ヒト社会の成立』



チンパンジーとボノボは地球上で最もヒトに近縁な種である。両者は外観こそ似ているが、その行動や社会においてはそれぞれに特異的な性質が見られる。それらと比較しながら、ヒト社会の成り立ちについて考える。

伊谷 原一

野生動物研究センター長・教授

京都大学 東京オフィス 東京で学ぶ 京大の知

[開催場所・問い合わせ先]

京都大学 東京オフィス

東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 27 階

[TEL] 03-5479-2220 [FAX] 03-5479-2221

[E-mail] t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

[URL] <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/>

[申込方法] ※全4回のシリーズですが、1回のみ申し込みいただくことも可能です

京都大学東京オフィスのホームページから申込用紙をダウンロードし、ファックスまたはメールでお申し込み下さい。

各回定員 100 名とし、申し込み締め切りは 9月26日(月) となります。

なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は、抽選とさせていただきます。

